

伸光写真サービス株式会社

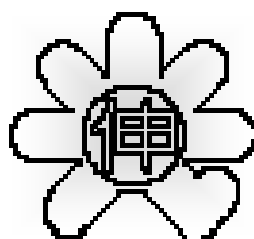
Shinko Photograph Service Ltd.

エコアクション21

環境活動レポート 2011

(対象期間 2011年4月～2012年3月)

2012年10月10日作成



認証・登録番号 0000538

ENVIRONMENTAL ACTIVITY REPORT2011

…………… 目 次 ……………

1. 会社概要……………	2
2. 対象範囲（認証・登録範囲）……………	3
3. 環境方針……………	4
4. 環境目標……………	5
5. 環境活動計画……………	6
6. 環境目標の実績……………	7
7. 環境活動計画取組結果とその評価 次年度の取組内容……………	8
8. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無……………	9
9. 代表者による全体評価と見直し……………	9



当社は写真のプリント技術を生かして電子業界の最先端技術を取り入れながら様々な分野の電子部品の試作品を製作しています。

私たちの製作している電子部品は世界の人々を結びつけ、宇宙開発にも貢献しています。

環境活動を通して世界の人々に幸せを、未来に希望を与えたい・・・

太陽がある限り伸びる光のように！ そう願って活動した1年間の記録をご覧ください。

1. 会社概要

所在地 〒224-0053 横浜市都筑区池辺町 4363 番地 18

設 立 昭和 52 年 7 月 1 日

代表者 代表取締役社長 大山 啓治

資本金 払込済 資本金 3,450 万円

環境管理責任者 取締役 専務 今井 俊夫

連絡先 〒224-0053 横浜市都筑区池辺町 4363 番地 18

TEL : 045 (933) 8311

FAX : 045 (933) 8318

事業内容 プリント配線板の製造・メタルエッチング及び
工業用精密マスク製造

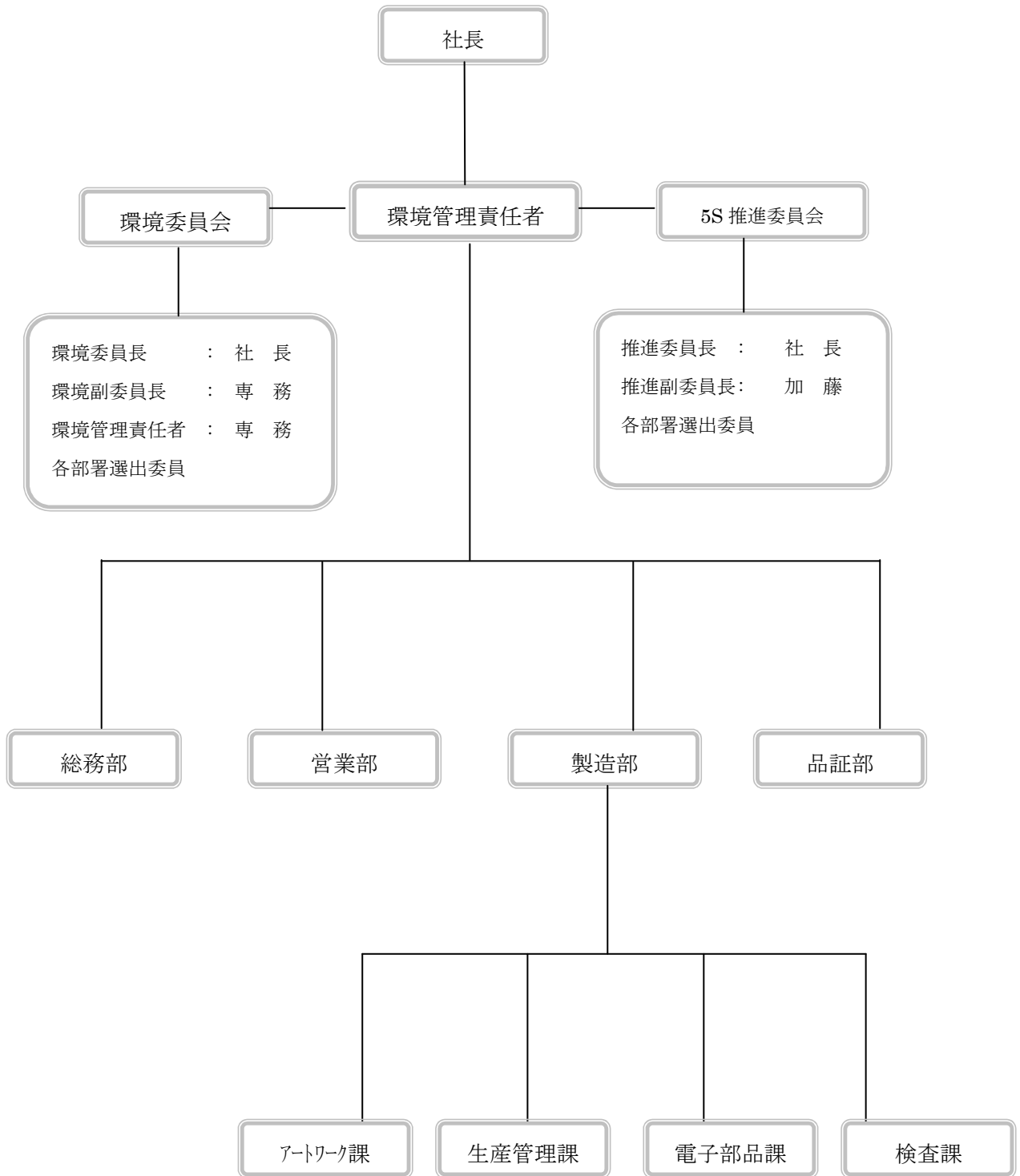
事業の規模 主要製品生産量 2.853 t

従業員総数 31 名

床 面 積 640.63m²



2. 対象範囲(認証・登録範囲)



3. 環境保全基本方針

伸光写真サービス株式会社は住宅地域に密着した企業として、身近な周辺の環境保全と資源の節減・回収・リサイクル問題に積極的に取り組み、環境に配慮した事業活動を推進し“かけがえのない地球環境を次世代に引き継ぐ”事を目指し次の環境活動を展開します。

- ① 事業活動より発生する各種廃棄物、化学物質の管理を徹底し法令を遵守すると共に、化学物質及び各種廃棄物の削減・回収・リサイクルに努めます。
- ② 水質汚染・大気汚染の予防及び騒音問題についても法令を遵守すると共に、地域周辺への配慮を優先した事業活動を行います。
- ③ 消費電力・ガソリン・コピー用紙・上水道等の使用量削減を中心とした省エネルギー・省資源活動を行い、CO₂の削減に努めるとともにグリーン調達を推進します。
- ④ 生産効率及び製品の品質を向上させ環境に配慮した生産活動を行い、環境負荷の低減に貢献します。
- ⑤ 周辺住民との積極的な対話を持ち、環境保全についての地域行事に進んで参加します。

以上のことを実施するため、環境に関する目的・目標を設定し、定期的に見直すことにより、環境マネジメントシステムの継続的な改善を推進する。

この環境方針は、全社員に周知させると共に、外部の利害関係者が入手可能にする。

制定日 2005年06月20日
改定日 2011年09月16日
伸光写真サービス株式会社

大山啓浩



4. 環境目標

環境目的	環境目標	単位	2011年 目標	2012年 目標	2013年 目標	2014年 目標
省エネルギー (二酸化炭素排出の削減)	電力使用量	Kw	176580	150516	143000	138000
	ガソリン 使用量	L	7764	活動が定着のため 維持活動 (監視データへ)	活動が定着の ため維持活動 (監視データへ)	活動が定着の ため維持活動 (監視データへ)
	二酸化炭素排 出量	kg	118215	112304	106689	101355
3Rの推進	一般廃棄物	kg	1620	576	516	480
	産業廃棄物	kg	35256	33600	33100	32600
省資源	上水道 使用量	m ³	1380	1320	1260	1200
	コピー用紙 使用量	枚	69672	活動が定着のため 維持活動 (監視データへ)	活動が定着の ため維持活動 (監視データへ)	活動が定着の ため維持活動 (監視データへ)
	グリーン 購入の推進	—	管理運営の 構築	2品目購入	4品目購入	6品目購入
環境汚染の 防止	化学物質の 削減	—	現状把握	目標仮設定	化学物質 使用量1% 削減	化学物質 使用量3% 削減
生産活動の 中で環境負荷の 低減	不良の低減	%	不良率を把握	(前年度より) 不良率0.5% 削減	(前年度より) 不良率1% 削減	(前年度より) 不良率1.1% 削減
地域社会との協 調・連携	環境ボランテ ィア活動の 実施	回	年一回実施	年一回実施	年一回実施	年一回実施



5. 環境活動計画(2011年度)

項目	内容
電力使用量の削減	1.電力監視システムの活用 2.クールビズ実施期間6月～9月まで 3.照明機器の切り替えの実施(各部署取りつける) 4.窓に遮光カーテンの取付、断熱フィルムを貼る(7月～8月)
ガソリン使用量の削減	エコドライブの継続実施、タイヤ空気圧の定期点検、補充 公共交通機関の有効利用
上水道使用量の削減	洗濯時の節水、蛇口をこまめに閉める(継続実施) トイレタンクのペットボトル作戦による節水 生産時に使用する水道水の確実な量の把握(管理表作成)
コピー用紙使用量の削減	裏紙の有効利用、両面印刷、縮小印刷の利用拡充 スキャナーの有効活用、社内データの共有化による印刷物の削減 会議時のプロジェクターの利用、回覧の有効利用
一般廃棄物の削減	一般廃棄物の計量の実施、外注先に梱包の軽量化を呼びかける、 通い箱も継続実施 梱包材、段ボールの廃棄を最小限にしリユースを最大限にする
産業廃棄物の削減	金属類の分別回収リサイクル フィルム描画率アップによる定着液、フィルムの削減
化学物質使用量の削減	管理表作成、購入量を記入し現状を把握する
グリーン購入の推進 管理運営の構築	管理運営の構築の為勉強会を開催、 グリーン購入ネットワークに加入
生産活動で環境負荷を低減	機械稼働率を把握し生産効率向上による電力、水道使用量の低減 ヒューマンエラーを防止し不良低減による廃棄物の削減
環境コミュニケーションの推進	環境ボランティア活動(鶴見川清掃)の継続実施 近隣住民とコミュニケーションを図る



6. 環境目標の実績

購入電力の排出係数 : 0.418 (kg-CO₂/kwh)

項目		単位	2011年 目標	2011年 実績
省エネルギー(二酸化炭素排出の削減)	電力使用量	Kw	176580	152808
	ガソリン使用量	L	7764	6322
	二酸化炭素排出量	kg	118215	81978
3Rの推進	一般廃棄物	kg	1620	2084
	産業廃棄物	kg	35256	33681
省資源	上水道使用量	m ³	1380	1336
	コピー用紙使用量	枚	69672	72000
	グリーン購入の推進	—	管理運営の構築	管理運営の構築
環境汚染の防止	化学物質の削減	—	現状把握	現状を把握し、 定期的チェック
生産活動の中で環境負荷の低減	不良の低減	%	不良率を把握	不良率を把握
地域社会との 協調・連携	環境ボランティア活動の 実施	回	年一回実施	年一回実施



7. 環境活動計画の取組結果とその評価・次年度の取組内容

項目	取組結果	評価	次年度の取組内容
電力使用量	-13%	○	屋上の遮光対策 エアコンの屋外機の日蔭 クールビズの早期化、長期化
ガソリン使用量	-19%	○	エコドライブ等継続実施、データは監視データにする
産業廃棄物	-4%	○	ドライフィルムと保護マイラーの分別を徹底し リサイクル&リユース化 粗大ごみ廃棄前のリユース可能を見極める
一般廃棄物	+29%	×	ごみの分別を再認識する（分別表作成） 古紙はリサイクル業者に移管する ビニール袋の分別、再利用 監視データに設定
上水道使用量	-3%	○	工場内流水洗浄作業はタイマー設定で管理 生産時に使用する水道水の確実な量の把握するため 水道メータを取り付け使用量を見える化
コピー用紙使用量	+3%	×	イントラネットの有効利用 裏紙の再利用、両面・縮小コピーの継続実施 監視データに設定
グリーン購入の推進	管理運営の構築	○	環境負荷ができるだけ小さいものを優先して購入する
化学物質使用量の削減	現状把握	○	原単位による化学物質の使用量を把握し、管理を強化し使用量を削減する。目標を仮設定する。
生産活動の中で環境負荷の低減（不良率を把握）	不良率を把握	○	事前技術会議による技術不良の低減 ヒューマンエラーの防止による不良率の削減
環境ボランティア活動の実施	年一回実施	○	環境ボランティア活動(鶴見川清掃)の継続実施 地域行事に協賛企業として参加



8. 環境関連法規等の遵守状況の確認、違反等の有無

主な適用法規制	内 容	遵守状況
下水道法	公共下水道排水の定期分析 異常なし	○
騒音規制法	地域住民からの苦情なし	○
土壌汚染対策法	特定有害物質なし	○
悪臭防止法	対象物質なし	○
廃棄物処理法	指定回収業者定期点検 マニフェストの管理	○
横浜市及び 神奈川県 条例	A 除外施設問題なし。資格者保有	○

環境関連法規への遵守状況を確認した結果環境関連法規への違反はありませんでした。
又、関係当局よりの違反等の指摘は過去3年間ありませんでした。

9. 代表者による全体評価と見直しの結果

目標達成状況から全社員の自主的な取組が定着している事がうかがえる。

特に電力の削減に関してはデマンドコントロールシステムの導入により全体のコントロールができたこと、又クールビズの早期化、長期化による継続実施、エアコンフィルターの定期清掃等継続実施の効果が大きかった。

上水道、産業廃棄物等も年々減少傾向であり、発想力の展開による仕事の効率化の結果だと思う。

ガソリンに関してはエコドライブ等の継続実施のほか電気自動車の購入により大きい効果に繋がった。

一般廃棄物の増加は機械設備の入替などによる廃棄物増加が大きな原因であり、コピー用紙は目標設定値が厳しい中で売上増加による使用量の増加でした。

地域社会との協調として鶴見川清掃活動の継続実施、鶴見川水マス推進サポーター認定登録、グリーン購入ネットワークに加入等が評価できる。

代表取締役 大山啓治

環境にやさしい電子部品作りを通して世界の人々に幸せを・・・そう願いながら伸光写真サービスは今日も環境活動を続けています。

伸びる光の様に・・・

